

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	京都大学	整理番号	1910
プログラム名称	メディカルイノベーション大学院プログラム		
プログラム責任者	伊佐 正	プログラムコーディネーター	渡邊 大

(評価決定後公表)

(総括評価)

- S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

[コメント]

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、京都大学中長期改革構想 WINDOW の下、大学院教育支援機構の配下に卓越大学院プログラム、博士課程教育リーディングプログラムを配備し、統括運営されている。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、オンラインポートフォリオシステムにより学生の成長が学生・教員両面から可視化、確認可能となっていることや、メンター制度、多段階 QE は、学生の質保証に役立っているものと評価できる。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、教員に加えダブルメンター制度により手厚い指導体制が構築され、学生は学際的な研究の架け橋ともなっている。連携機関によるセミナーも有効に開催され多様なキャリアパスに向けて履修生に対する情報提供が行われている。一方で、直接関係しない教職員のプログラムに対する理解が十分とは言えない状況にあり、理解を促進するような働きかけとともに、本プログラムが目指している「知のプロフェッショナル」像につき、教職員、学生の理解を高めるような取り組みを期待したい。

優秀な学生の獲得については、選抜試験では受験者の 100%が合格となり、定員を 1.5 倍程度超えた学生の履修が認められている。教員の指導時間や機器の数等の教育資源の問題もあることから、選抜方法も含めて今後検討が望まれる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、審査における合否だけでなく、多段階 QE によりメンターによるきめ細かな指導がなされている。これらメンターからのフィードバックにより、学生自身の質そのものが向上できていると評価できる。さらに、全学の学位認定・付記型学位授与の制度が整っており、プログラム個別ではなく大学と

して質保証するシステムを構築している。

事業の継続・発展については、寄付金の受け入れ態勢として「メディカルイノベーション人材育成基金」が整備され、またクラウドファンディング等による講義プログラムの自走化・発展が計画されている。しかし、それらの目標額の設定や獲得に向けた広報等、より実現化・有効化に向けた努力が望まれる。